

2012 年度経済学史定期試験問題 正解解説は赤字

各 4 点×25。同じ選択肢を何度選んでもよい。

I

次の A～D の経済学者について、それぞれが直接に批判する相手となった同時代の論者（学派）を下記(1)～(4)の中から一つずつ選び、その番号をマークせよ。また、そのあとに掲げる命題について、その経済学者の主張であれば(1)を、選択した批判相手の主張であれば(2)を、どちらの主張でもなければ(3)を、両者とも主張していることであれば(4)をマークせよ。一人の経済学者についての問題で同じ番号を二回以上選ぶことはあり得る。

批判相手となった論者の選択肢：

- (1) ドイツ歴史学派      (2) マルサス      (3) 重商主義      (4) プルードン

A スミス

批判相手：① (3)

スミスは重商主義批判の問題意識で『国富論』を書いた。

- ② 自国内にマネーが入ってくることが自国の国益である。 (2)

重商主義の基本主張である。これを批判することが『国富論』の目的だった。

- ③ 国際競争力を維持するために賃金を安く抑えるべきである。 (2)

重商主義は貿易黒字を増やすことが目的だから、輸出競争力をつけるために賃金を抑制しようとした。スミスはこれを批判した。昨年も同じ内容の問題を出したはずなのに、4割しかできていない。

- ④ 商品の交換価値は労働で決まる。 (1)

スミスの価値論である。

- ⑤ 自由貿易すれば国際競争力が高まって貿易収支が増えて発展する。 (3)

重商主義は自由貿易反対なので違う。また、スミスも、重商主義が貿易収支を増やそうとしたことを批判したのだから違う。スミスの自由貿易論が、貿易収支拡大を目指したものではないことは、授業でも強調したし、昨年も同じ内

容の問題を出したはずである。にもかかわらず、四分の一しか正解していない。

## B リカード

批判相手：⑥ (2)

マルサスとは生涯のライバルとして、穀物法論争などで論争を繰り広げた。

⑦ 自由貿易すれば総需要が伸びて経済が活性化する。 (3)

マルサスはもちろん自由貿易反対で、穀物の自由化で地代からの支出が減って総需要は縮小するとみなした。他方、リカードの自由貿易論である比較生産費説は、総需要の拡大とは何の関係もない。リカードは、総需要は常に総供給に等しいと見る「セイ法則」を唱えた。リカードの自由貿易論が、景気がよくなって経済が活性化するというような話ではないことは、授業でも強調したはず。昨年も同じ内容の試験を出した。それなのに、14.7%しか正解がない。

⑧ 食糧生産は人口増に追いつかないので、労働者の所得は生存維持水準になる。 (4)

マルサスの人口法則による「賃金鉄則」の論点である。リカード賃金理論はこれを受け入れている。正答率わずか8%。

⑨ イギリスの産業はだいたいどれも他国よりも生産性が高いので、自由貿易することがイギリスの国益になる。 (3)

マルサスは自由貿易反対なのでもちろん違う。リカードによれば、他国より生産性が低くても自由貿易は利益になる。正答率6割は期待より低い。

⑩ 地代は消費需要の源泉になるので、地代が増えた方が経済にとってよい。 (2)

マルサスの主張である。リカードは「セイ法則」を唱えたので、総需要によって経済状態が決まるという見方をとらない。

## C メンガー

批判相手：⑪ (1)

メンガーは、ドイツ歴史学派と、方法論論争などで泥沼の論争を繰り広げた。

⑫ 自由貿易では先進国が後進国の犠牲で利益を得る。 (2)

ドイツ歴史学派がこのように言って、古典派の貿易論はイギリスを利するものとみなして、ドイツの保護貿易を主張した。

⑬ 古典派の価値論は抽象的な一般論だから間違っている。 (2)

ドイツ歴史学派の主張。メンガーも古典派の価値論を批判したが、「抽象的な一般論」だからという理由ではない。メンガーの価値論も、歴史学派に言わせれば抽象的な一般論である。正答率 35%と低い。方法論論争の基本論点を理解すること。

⑭ 価格は労働投入ではなく需要者側の主観的要因で決まる。 (1)

メンガーの「限界革命」の価値論の主張である。

⑮ 経済学は普遍的な厳密科学を目指さなければならない。 (1)

方法論論争におけるメンガーの主張である。

## D ワルラス

批判相手：⑯ (4)

⑰ 利潤は不公正な不等価交換から生じる。 (2)

ワルラスもマルクスも、プルドンのこのような主張を批判した。

⑱ 資本主義経済の市場は自由放任すれば一般均衡が実現する。 (3)

自由競争のもとでは一般均衡が実現するが、現実の資本主義のもとでは独占や競争の妨げがあって、自由放任では自由競争は実現しないというのがワルラスの主張である。授業でも強調したし、教科書でも明記している。にもかかわらず、20%しか正解していない。

⑲ 社会主義をめざすべきである。 (4) 全員に正解点

ワルラスもプルドンも社会主義社会を目指した。試験会場で余計なことを言ってしまったために、混乱を与えてしまいました。すみません。全員に正解点4点を出します。

⑳ 相対価格は(今日でいうところの)限界効用の比に等しい。 (1)

ワルラスら「限界革命」の価格理論である。

## II

マルクスとマーシャルは、先行する学説のどのような見解を総合したのか。それぞれの説明文の括弧内に当てはまる文章を、その下の選択肢から選んでその番号をマークせよ。

A：マルクス

( ㉑ (3) )を短期的な局面で当てはまるもの、( ㉒ (4) )をその動揺を貫く長期平均で当てはまるものとして総合した。

#### 選択肢

- (1) 資本蓄積が進むと土地収穫逓減から地代が上昇し利潤率が低下するとするリカードの見方。
- (2) 分業が進むと労働生産性が上昇するとするスミスの見方。
- (3) 貨幣への欲求のせいで諸商品が売れなくなることがありえ、貨幣の力が経済を左右するとみなす重商主義の見方。
- (4) 貨幣は流通の仲立ちにすぎないため実体経済に影響せず、財の総需要は総供給に必ず等しくなるとみなすリカードの理論モデル。

#### B：マーシャル

( ㉓ (7) )を一時的な均衡で成立するもの、( ㉔ (5) )を長期均衡で成立するものとして総合した。

#### 選択肢

- (5) 正常な率の利潤を含む単位費用によって自然価格が決まるとする古典派の価格論
- (6) 限界地の投下労働量によって穀物価値が規定されるとするシュモラーの価格論
- (7) 追加的一単位から得られる効用に比例して価格が決まるとする、ジェボンズ、メンガー、ワルラスらの価格論
- (8) 買い手の足下を見て独占力でつり上げて利潤が得られるように価格が決まるとみるデューリングの価格論

### III

IIの選択肢(1)～(8)のうち、明らかに誤った文章を一つ選び、その番号を㉕にマークせよ。

(6) 「シュモラー」が間違い。「リカード」が正しい。